

令和5年度 愛媛から「体験の風をおこそう」運動推進事業

親子でアウトドア 防災編

1 ねらい

- ・防災体験活動を通して、命を守るために必要な知識や技術を身につける。
- ・親子のふれあいや参加者相互のふれあいを通して、豊かな心を育む。
- ・「体験の風をおこそう」運動・「早寝早起き朝ごはん」国民運動を推進する。

2 実施日

令和5年11月12日（日）10:00～15:30

3 日程

日程	内容
9:30	受付
10:00	開講式
10:30	新聞紙食器づくり、かまどで火おこし、ビニール袋炊飯 昼食（火おこしで温めたカレーを食べよう）
12:30	休憩
13:00	テント設営体験、災害用トイレ組み立て体験、煙ハウス体験、 肱川水域の学習、排水ポンプ車等見学など
15:00	ふりかえり・閉講式
15:30	解散



4 活動場所

大洲市防災センター（愛媛県大洲市若宮1869-1）

5 参加対象・募集人数

小学4～6年生とその保護者・15組（35名程度）

6 参加人数

9家族（20名）

7 活動内容

大洲市防災センターを会場として、様々な防災プログラムを体験することができた。

午前中は、屋外にあるベンチ式かまどを使用してビニール袋炊飯に挑戦した。マッチやメタルマッチで火おこしをしたが、初めて体験する子供も多く、何度も挑戦する姿が印象的だった。ご飯やカレーなどを入れる容器として、新聞紙を使って大きさの異なる2種類の食器を作ることができた。

午後からは大洲市防災センターによるテント設営体験や災害用トイレ組み立て体験、国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所による肱川水域の学習や排水ポンプ車体験など、親子

で交流しながら様々なプログラムを体験することができた。



8 参加者の声

事業後アンケート結果

*満足：88.0% *やや満足：12.0% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

○実際に体験をすることで、より防災について考え、理解を深めることができました。

○いつ起こるか分からない災害について、親子でしっかり考え、体験できる良い機会になりました。

○防災について見直す良い機会になったと思う。マイ・タイムラインを作成して家族で意識を高めていきたいと思いました。

防災プログラムを親子で体験したことで、一緒に楽しみながら、必要な知識や技術を身に付けることができたようだった。また、事業内で体験したことや考えたことを家に戻ってから親子で取り組みたいとの発言を多く聞くことができ、今後につながるよい機会となっていた。

9 事業の成果と課題

大洲市防災センターを事業の会場とすることで、国立大洲青少年交流の家だけでは提供することができない、より多くの充実した防災プログラムの提供ができた。また、愛媛県内の様々な地域からご参加いただいたが、大洲市防災センターの機能を生かした事業を行うことで、子供だけでなく大人も防災に対する興味や関心を高めることができた。

運営においては、国立大洲青少年交流の家と大洲市防災センター、国道交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所のそれぞれの職員間での情報共有を事前に図り、打合せをすることができたので、限られた時間の中で効率よく、工夫されたプログラムの提供ができ、参加者の満足度が高い事業運営ができた。

11月中旬の開催で気温が低かったため、排水ポンプ車体験等の屋外での体験時には肌寒さを感じる人が多かったように思う。また、募集人数に対して応募が満たさなかったため、広報エリアを検討する必要がある。さらに、事業アンケートにて、低い年齢を対象とした防災事業を望まれる声も受けたので、内容の検討材料にしたいと思う。

(担当：事業推進係長 谷山 典)